

2018SSH卒業生調査 意見抜粋

社会人(研究職・新規事業開発・コンサルタント), 博士課程在学者, 博士課程進学予定者など研究開発に携わる卒業生絵からの意見を抜粋

Ⅱ 高校時代体験した SSH 事業の中で、現在の自分にとって最も影響を与えたと思うもの、他の生徒に比べ力がついたと思えるものを1つ上げて、どのような影響を与えたか(例 SSH 特別講義:進路選択の指針となった等)。どのような力が身についたか(例 科学英語の発表:人前での発表が苦にならなくなった等)。などを記述してください。

- 研究とは何か、その基本的な流れを身につけることができた。実験デザインの考え方だけではなく、実際の手技手法(分子生物学に必要な試薬, 試料の取り扱い方)を学ぶことができ、これは大学に入ってから実際に役に立ったし、大学での研究分野を選択する上で大きな影響があった。
- 研究の入門として、どのようなデータが出るか正解のない実験を行い、それに対して考察を加え、発表して周囲から意見・質問を受け議論するという流れを経験することが出来た。それにより、漠然と知的好奇心から研究への興味を持つ段階から、研究そのものの魅力を感じ、大学における学科の選択、就職先の選択にも迷いなく、研究が自身の志望する職だと考えることに繋がった。
- 科学技術を生かした様々な分野で働く人たちのことを知り、自分が興味を持てる事柄がなんであるのか考えることが出来た。
- 自ら問題意識を持ち、解決方法を模索した上で適切な解析・考察を与えるという課題研究を通じた一連のプロセスを経験したという点が現在の研究活動に大きく活かしている。というのも、本 SSH 事業を経ていない他の学生と比較した際に、テーマの設定が適切であることや研究の進捗が良いことなど感じる。
- あまり抵抗なく質問できるようになりました。こんなことを訊いたら不勉強と思われて恥ずかしいというような変な自尊心が足枷にならず(専門分野について知識が浅いのは当然と自分も周囲も暗に合意している状況)、無邪気に興味関心に任せて質問ができる高校生という立場にいる間にどんどん質問して質問できる力を養えたと思います。ことあるごとに質問させてもらえる機会があり、質問することがポジティブにとらえられることが多かった。
- 通常見ることができない研究機関を見学することによって、刺激を受けることができた。また、研究を生業とする方と実際に話をすることによって、研究職というものを身近に感じることもできた。研究職に限らず、知らない職業になりたいと思うことは不可能なので、理系の人材がどういったところで役立っているのか(実際にその仕事ぶりを見ながら)知ることができるサイエンスツアーは有意義
- 仮説を立てて考えるくせが付いた。

Ⅲ 高校時代 SSH・総合理学科でこのような企画があれば大学へ進学後や将来科学技術に携わることになってから有効であると考えられる企画があれば記入してください。

- 実際に研究者が働いている現場(大学の研究室・企業・研究所)に行き、生徒自ら手を動かすことができるような体験。行くだけでもある程度効果はあるでしょうが、自ら手を動かして実験をするということが大切
- 大学の教授や企業の上司から意見をもらいつつ、自分で考え研究していくことが重要だと思うので、「仮説を立てる」「仮説を証明する手法を考える」力を養える企画があると役立つ。
- 高校時代に、本当に興味のある事柄を見つけることが出来たら、大学の学部選択をしやすくなり、大学入学後も勉強や研究に打ち込むことができると思います。科学技術がどのように活かされているのかや、その最先端で働く人たちがどんなことを考えているのかを知る機会が多くあればよい。
- 高校時代はスキルよりも、科学技術に携わる本質的な動機付けの原体験が持てたらいいなと思います。
- 各高校生が自身の興味のある分野に関する研究室に訪問し、その研究室ではどのような研究を行なっているのかをまとめて、他の高校生にプレゼンするというような高校生の興味ベースでの企画があると良いと思われる。というのも、研究活動では自らの研究内容に関連する情報を収集し、その内容に関して十分に理解した上で、活用および発信を行う必要があると考えており、そのプロセスを含んだ経験をできるような企画があれば高校生にとって有益であると思われる。
- 論文を検索する方法・論文を読む方法・論文を書く方法について「体系的に」知ることができれば、巷に溢れる情報の中から正しい情報を選び取ることができるのではないかと。